

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-210267

(43)公開日 平成11年(1999) 8月3日

(51)Int.Cl.⁹

識別記号

F I

E 0 4 H 15/32

E 0 4 H 15/32

A

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平10-32187

(22)出願日 平成10年(1998) 1月29日

(71)出願人 598020549

宮野 正克

静岡県浜松市呉松町2511

(72)発明者 宮野 正克

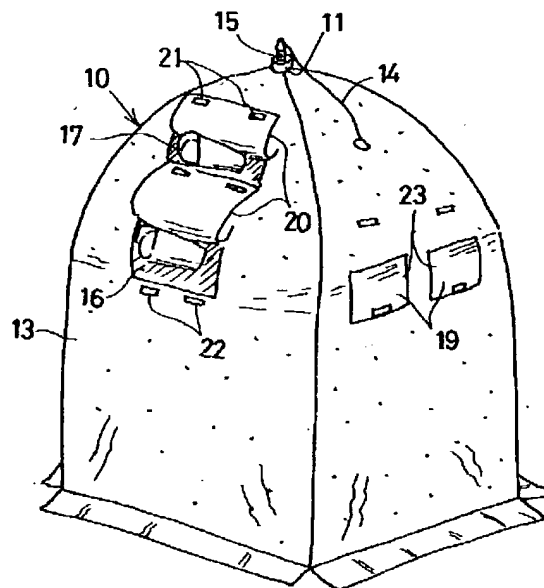
静岡県浜松市呉松町2511

(54)【発明の名称】 観鳥用ブラインド

(57)【要約】

【課題】観鳥用ブラインドにおいて、多数の観察窓を設けて鳥獣の観察を容易に行うと共に、ブラインド内部が明るくなり過ぎ、鳥獣に観察者の挙動が察知されてしまう不具合を解消しようとするを課題とするものである。

【解決手段】折り畳み式の骨材の外表面を繊維製の幕布で覆って構成されており、前記幕布の前面に主観察窓と残りの面のいずれかに副観察窓とを設け、少なくとも両観察窓のいずれかに開閉蓋を設け、各観察窓を閉じることができる構成にしたものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】折り畳み式の骨材の外表面を繊維製の幕布で覆って構成されており、前記幕布の前面に主観察窓と残りの面のいずれかに副観察窓とを設け、少なくとも両観察窓のいずれかに開閉蓋を設けてなる観鳥用ブラインド。

【請求項2】請求項1において、前記開閉蓋には開き位置に係止するための係止手段が設けられている観鳥用ブラインド。

【請求項3】請求項1において、前記幕布には主観察窓のない側面に開閉自在の出入り口が設けてある観鳥用ブラインド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、湖沼や森林に設置して鳥獣を観察する際、観察者の姿を鳥獣の目から隠すべく用いられる観鳥用ブラインドに関するものである。

【0002】

【従来の技術】観鳥用ブラインドは観察対象である鳥獣の自然の営みに影響を与えることなく、観察しあるいは写真撮影することを目的に、観察者を鳥獣の目から隠すために観察地に設置して使用される。従って、観鳥用ブラインドは観察する地への携行や、観察地での設置、あるいは撤去が迅速かつ容易に行えることが求められている。従来、そのような目的を達成すべく準備される観鳥用ブラインドは図5で示すように、宿泊用の簡易テントを転用したり、改造したりして、簡単な支柱Aの上に布製のカバーBを掛け、それに観察用の窓Cを開けたものが使用されている。すなわち、観察用の窓を観察対象に向けて設置し、その中へ入って肉眼や望遠鏡で直接に観察し、あるいはカメラDを用いて撮影を行う構成となっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、宿泊用のテントは地上にしっかりと固定する形式を採っているため、テントを利用した観鳥用ブラインドは設置や撤去が容易でなかった。また、鳥獣を観察するための観察窓が一か所にしかないため、周囲の状況を把握することができず、観察対象となる鳥獣の挙動を理解できないことがあった。発明者は、この点を改良すべく、前方の観察窓の他に側方や後方に副観察窓を設けて観察を行って見たが、観察窓が四方にあると観鳥用ブラインドの内部が明るくなり、鳥獣の側から観察者の挙動が察知されてしまう不具合があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記した課題は、折り畳み式の骨材の外表面を繊維製の幕布で覆って構成されており、前記幕布の前面に主観察窓と残りの面のいずれかに副観察窓とを設け、少なくとも両観察窓のいずれかに開閉蓋を設けることによって解決される。また、前記開閉

蓋には開き位置に係止するための係止手段を設けることが好ましい。さらに、前記幕布には主観察窓のない側面に開閉自在の出入り口を設けることも好ましい。

【0005】

【作用】〔請求項1〕幕布に主観察窓の他に副観察窓があり、そこから観察者の周囲を併せて観察することが可能となる。また、各観察窓には開閉蓋が設けてあり、これを閉じることによって観鳥用ブラインド内へ入射する光の量が調節される。

10 〔請求項2〕また、開閉蓋は係止手段によって開き位置に係止することができる。

〔請求項3〕さらに、観察対象と反対の方向へ出入りすることができる。

【0006】

【実施例】以下、本願に係る発明の一実施例を説明する。図1～3中、10は鳥獣の観察に用いる観鳥用ブラインドである。観鳥用ブラインド10は大略乳児用の蚊帳の骨部材と同様に、上端部で頂棒11に枢支された4本の傘骨12を有し、その傘骨12を支え骨12aによって支えて開き位置に剛性金属をもって弾性的に保持し、外面に布製の幕布13が被せてある。観鳥用ブラインド10の設置は前記頂棒11に設けた引き紐14を引張って拡げ、係止レバー15を作動させて開いた状態に保持する。折畳みの操作は、これと逆に係止レバー15を押して係止を解き、図4(b)で示すように折り畳む。また、前記傘骨12は折畳み傘と同様に中央部が上方へ折り曲げられる。観鳥用ブラインド10を拡げた状態では、平面形状が一辺1.2mの略正方形をなし、側面形状は下部が垂直で上部が小児用蚊帳のように外側へ膨らんだ四角錐状となって、1.5mの高さが得られる。

40 【0007】前記幕布13には茶色系迷彩色が使われ、前面に位置して水平方向に伸びる下観察窓16と上観察窓17との2個の細長い主観察窓が形成されている。主観察窓16、17の上下方向寸法は少なくとも望遠レンズを露出させることのできる150mm程度に設定されている。各観察窓16、17の上縁外面には開閉蓋20が縫合、接着などの手段で取り付けられている。開閉蓋20は前記各観察窓16、17の開口縁より2cm程度大きく作られており、特に下縁部には係止手段たるマジックファスナの一片21が表裏に取り付けられている。また、マジックファスナの他片22は各観察窓16、17の下縁部と、上縁部からやや離れた上方とに設けられている。よって、開閉蓋20はマジックファスナの下側の他片22に係合させることによって観察窓を閉じた位置に保持することができ、上側の他片22に係合させることによって観察窓を図1で示す開いた位置に保持することができる。

50 【0008】前記幕布13の正面以外の面には、水平方向に配置された2個と、裏面に配置された1個との計3

個の略正方形の副観察窓19が形成されている。副観察窓19の縁には前記開閉蓋20と同様に窓の縁よりやや大型の開閉扉23が設けられている。24は幕布13の裏面に設けた開閉口であり、幕布13の裏面を略U字形に切り開き、その切断部にファスナを設けて開閉可能としたものである。よって、ファスナを開けば、幕布13が舌片のように大きく開き、出入りが容易に行える。

【0009】この実施例は以上のように構成されているので、図4(a)で示すようにバッグに詰め込んで観察現場へ携行し、同図(b)で示すようにして、傘骨の折り畳んであった部分を伸ばし、さらに、同図(c)で示すように引き紐14を引いて拡開させ、観察窓16、17を観察対象へ向けて地上に置く。地表への固定手段を設けるか否かは任意である。

【0010】鳥獣の観察は上観察窓17と下観察窓16を用いて行う。鳥獣の観察に際して必要な周囲の状況を把握するには側面、あるいは裏面に設けた副観察窓19を用いて行うが、使用しない窓の蓋や扉を閉めておき、同時に開ける観察窓の数を減じて内部が明るくなり過ぎないようにすることにより、鳥獣の警戒感を弛め自然の状態を観察したり撮影したりすることができる。

【0011】

【発明の効果】請求項1の発明によれば、幕布には観察対象を観察するための主観察窓の他、周囲を観察するための副観察窓が設けられ、観察者が周囲の環境まで注意を払いながら観察できる。すなわち、鳥獣の挙動に影響を与える周囲の環境変化の把握が可能となる。請求項2の発明によれば、開閉扉は係止手段によって開き位置に保つことができるので、従来のように開閉扉を手で開けた状態に保ちながら観察する動作が必要でなくなり、観

察作業に専念できる。請求項3の発明によれば、観鳥用ブラインドへの出入りは観察対象と反対の方向へすることができ、鳥獣の自然な生態に影響を与えることが少ない。などの効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】図面は本願発明の一実施例である観鳥用ブラインドの外観図である。

【図2】骨格の外観図である。

【図3】図1の3面図であり、(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は裏面図である。

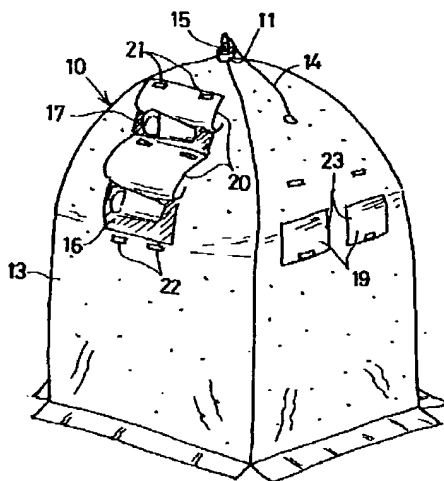
【図4】使用状態を示すもので(a)は携行状態、(b)は組立途中の状態、(c)は組立状態をそれぞれ示す。

【図5】従来の観鳥用ブラインドを示す外観図である。

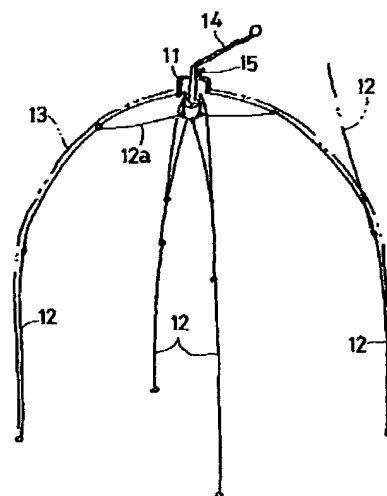
【符号の説明】

10・・・観鳥用ブラインド	11・・・頂
枠	
12・・・4本の傘骨	13・・・幕
布	
14・・・引き紐	15・・・係
	止レバー
16・・・下観察窓	17・・・上
観察窓	
19・・・副観察窓	20・・・開
	閉蓋
21・・・マジックファスナの一片	
22・・・マジックファスナの他片	
23・・・開閉扉	24・・・開
閉口	

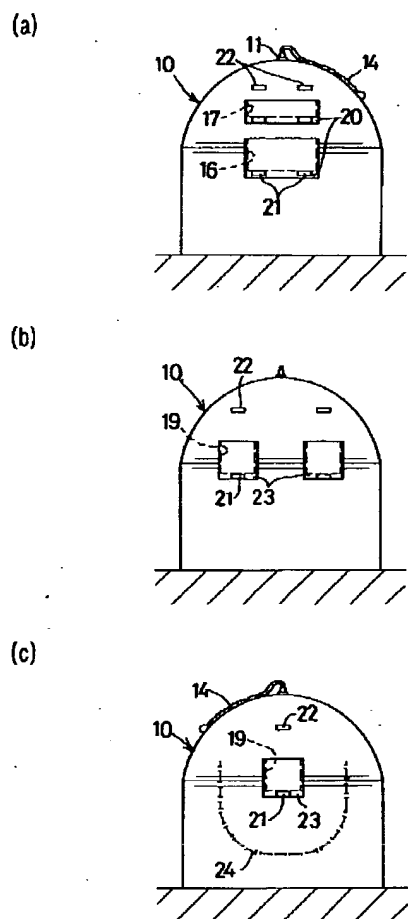
【図1】



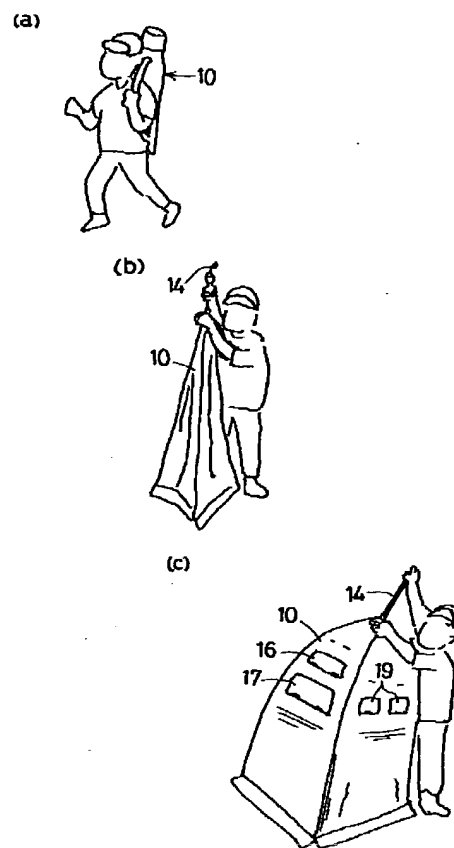
【図2】



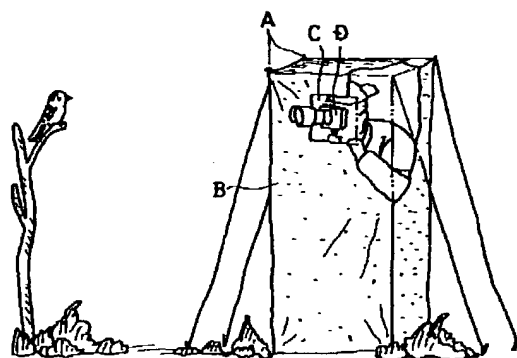
【図3】



【図4】



【図5】



【手続補正書】

【提出日】平成10年8月16日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

【作用】〔請求項1〕幕布に主観察窓の他に副観察窓が

あり、そこから観察者の周囲を併せて観察することが可能となる。また、各観察窓には開閉蓋が設けてあり、これを閉じることによって観鳥用ブラインド内へ入射する光の量が調節される。

〔請求項2〕また、開閉蓋は係止手段によって開き位置に保つことができる。

〔請求項3〕さらに、観察対象と反対の方向へ出入りすることができる。

PAT-NO: JP411210267A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11210267 A

TITLE: BLIND FOR BIRD-WATCHING

PUBN-DATE: August 3, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MIYANO, MASAKATSU	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MIYANO MASAKATSU	N/A

APPL-NO: JP10032187

APPL-DATE: January 29, 1998

INT-CL (IPC): E04H015/32

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To watch birds while taking care of the environment by covering the outside face of skeleton members with a fibrous tent and providing a main observation window on the front face and a sub-observation window at the other face and further providing openable windows in these windows.

SOLUTION: A tent 13 is spread by pulling a string 14 provided at the top frame 11 and retained in the spread condition by actuating an engaging member 15. Two oblong main observation windows of a lower observation window 16 and an upper observation window 17, positioned at the front face of the tent 13 and horizontally extended and totally three sub-observation windows 19 are formed

at other faces except the front face. Birds and beasts are observed through the upper observation window 17 and the lower observation window 16. The sub-observation windows 19 formed at the side faces and the rear face are used for grasping the necessary environmental conditions. Covers of windows and a door which are not used, are kept close to reduce the number of observation windows opened at the same time and prevent excessive brightness in the inside.

In this way, cautiousness of birds or beasts is lowered to observe natural conditions or take a picture.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO